



園だより

第8号

平成30年11月28日

駿河台大学第一幼稚園

園長 田所 恒子

楽しい幼稚園って？

金色のイチョウの葉が舞い、冬の訪れを感じる季節となりました。そんな中、子どもたちは、寒さに負けず、友達と一緒に戸外で元気いっぱい遊んでいます。

子どもたちは、学級や幼稚園の中で安定して過ごせるようになると「やってみよう」と、興味や関心を抱いた身近な「もの」「こと」「人」に自分からかかわって遊びます。心や体を動かして夢中になって遊ぶ中で、楽しさを味わい、思考力や想像力、協同性など多くの力を身につけていきます。本園では、そんな子どもたちが主体的に遊ぶ、楽しい幼稚園を目指していますが、2学期の終わりを迎え、特に「人」とのかかわりの深まりをそれぞれの学年に感じています。

友達と一緒に遊ぶことはとても楽しいことです。しかし、友達は、自分と異なる思いや考えをもつ思い通りにはならない存在でもあります。そのため「人」とかかわりたい気持ちが高まる中で、様々なトラブルが起きています。担任は、このトラブルを成長の機会として大切に捉え、丁寧な幼児理解を行い指導しています。さらに、遊びを提示して、友達と一緒に遊ぶことの喜びや満足感、達成感を味わったり、言葉で伝えることの大切さや自分の思いに折り合いをつけて一緒に楽しむことの大切さなどを学んだりすることができるよう指導しています。

12月14日の子ども会では、学級の友達と一緒に劇遊びを行うことを通して楽しい幼稚園生活を送る子どもたちの成長した姿をご覧ください。

さて、本園は、子どもは勿論、保護者の皆様にとっても楽しい幼稚園を目指しています。そのための活動の一つである「お父さんと遊ぶ会」が、11月10日に100人近くのお父様に参加していただき開催されました。事前の打ち合わせ会に参加されたお父様が企画して下さった遊びのコーナーに、当日参加のお父様方も参加していただき、楽しい遊びが展開されました。子どもたちは、普段の幼稚園生活とは異なるお父様方との遊びに大喜びで、各コーナーを回りながら楽しんでいました。十分な打ち合わせ時間もなく、初めて出会ったお父様方同士で遊びを進めていくことは、本当に大変だったことでしょうか。しかし、子どもたちの楽しそうな姿に触れ、満足感や達成感を味わわれたお父様方は、とても楽しそうでした。終了後の教職員との懇親会でも「参加して良かった」「楽しかった」という感想がたくさん聞かれ、幼稚園への関心の高まりやお父様同士のつながりが深まった様子を感じ取れました。私たち教職員も、とても嬉しく楽しい一時でした。ご多用の中、多数のお父様にご参加いただきありがとうございました。

昨今PTA活動の在り方が議論される中、本園でも保護者の方の負担減に向けて、いちよう会の仕事を見直してきました。会員に分担してきた仕事を幼稚園がボランティアを募り、お願いしたこともその一つです。参加された皆様は、大変なこともあったと思いますが、作業を通して幼稚園の教育をご理解いただいただけでなく、やりがいも感じられたようです。保護者同士の情報交換や交流もでき、とても楽しそうでした。しかし、参加されない方々には、楽になっても、いちよう会や保護者同士のつながりを築くきっかけがなくなることにもなりました。難しい問題です。

次回のいちよう会役員会で、どうしたら保護者の皆様にとって、より楽しい幼稚園となるかを考えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



年少組「おおかみさん」の鬼ごっこストーリーのある鬼ごっこは、理解しやすく、みんなで楽しめます。



年中児「毒リンゴゲーム」円形ドッジボールですが、なぜかこの名称がついています。円の中の子どもがボールにあたると温泉に入るというルールで、友達と一緒に楽しんでいます。



年長組「お店屋さんごっこ」グループの友達と一緒に作る物や遊び方を考えてお店を作り、年少年中児をお客によびました。友達とイメージを共通にして遊ぶことは、とても難しい活動です。



輪投げのコーナー。その他に綱引き、棒運び、演奏会、紙飛行機、迷路、宝探し、紙芝居、タグラグビー、大玉ボーリングなど楽しい遊びが行われました。